

＜視点・論点＞

落ちアユ考

～四万十川対策室～

四万十川の落ちアユ漁がまもなく解禁され、この日にあわせて県内外から多くの愛好者が下流の中村市周辺に訪れる。日の出とともに寒風の中で繰り広げられる情景は秋の風物詩ともいえ、写真家などからも注目されている。

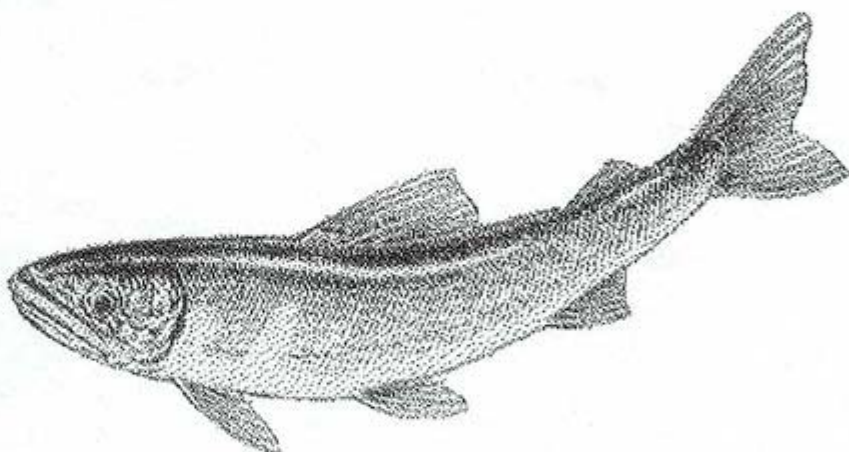
それにしても、この時期のアユをなぜ「落ちアユ」と呼ぶのだろうか。春から遡上を始め、お腹一杯に卵を抱えて下ってくるアユ。産卵後はそのまま力尽きるという。その顔は子孫を残した安心感からか、秋口までの生き活きとした清流の女王の姿は、どこにも見あたらない。人の人生を一年に凝縮したようでもある。そのままそっとしておいてやりたいとの気持ちがわくが、一年魚という悲しい運命をもっていることから、むしろ河川を汚してしまうこともあるだろうし、地域経済に大きく寄与していることを考える必要があるだろう。

それにしても、「落ちアユ」の名前は変えられないかと思う。「下リアユ」は平凡だし、「熟女アユ」は少し不まじめか?! 一年間洪水にも負けず遡上続けたアユ、地域経済に貢献してくれたアユに対して、感謝の気持ちのこもった呼び名を四万十川のアユだけでもつけてやりたい。

近年、この四万十川のアユの漁獲量が大きく減少しているとの指摘が多く寄せられる。乱獲や水質の悪化、山の変化など様々な原因が指摘されているが、その実態や原因が分からない。

高知県では、四万十川流域の羅針盤である「清流四万十川総合プラン21」

(※)の方向に沿って来年度から水産資源の総合的な実態調査を実施し、その要因を解析した上で、有効な対策をとることとしたい。



一口メモ

「清流四万十川総合プラン21」

高知県では、清流四万十川を流域住民はもちろん、県民・国民共有の財産として後世につないでいくことが、いま生きている私たちの責務であると考え、四万十川流域の保全と創造を基本に、清流四万十川と地域の振興が調和し共存する流域づくりを進めるため、その基本指針として「清流四万十川総合プラン21」を策定しました(平成8年3月)。

プランでは「循環」・「予防」・「調和」の基本理念に沿って、四万十川が抱えている多くの課題とその対策を始め、様々な事業を実施する上での配慮すべき事項や目標とする指標をできるかぎり網羅しており、この中で、アユをはじめとする天然魚の生息状況等の調査をもとに、その保護・増殖を進めることを明記しています。(詳細は別章で説明します)

～ 四万十情報 ～

落ちアユ漁解禁 【11月16日(日)】

日の出の煙火を合図に、四万十川最下流、中村市の赤鉄橋周辺の四万十川では、今年もたくさんの太公望とカメラマンでの賑わいが予想されます。

四万十川僻村塾 開催

四万十川流域住民ネットワークの中心団体のひとつである四万十川僻村塾が次のとおり開催されます。

【11月15日(土) 18:30～】

於：中村市山路 アカメ館

＜講師陣＞ 問合せ先：tel 0880-36-2334

塾長 高橋 治 作家
 塾頭 月尾 嘉男 東京大学工学部教授
 教授 新谷 暁生 カヌーイスト
 教授 崎野 隆一郎

然別湖ネイチャーセンター代表

教授 高石 芳光 釧路川カヌークラブ会長
 貞野 馨子 女優